

学長定例記者会見要項

日 時： 令和2年9月3日（木） 11：00～11：45
場 所： 法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

発表事項

1. 新型コロナウイルス感染症への対応状況について
2. 令和3年度(2021年度) 山形大学大学院研究科の改組について
3. 結髪土偶立ち上がる！
～ お帰り、修復を終えた結髪ちゃん ～
4. 聴覚障がい学生に対する遠隔情報保障支援の取り組み
～ 大学間連携・支援リソース共有の第一歩 ～

お知らせ

1. Virtual Open Campus 2020 学生企画イベント“YU for You”
2. ヤマガタステム（STEM）アカデミー
～ 「ジュニアジュニアドクター育成塾」 マスターコース受講生募集 ～
3. 女子中高生のためのサイエンス・カフェ開催
～ 親子で女性の研究者と話してみよう ～

(参 考)

- 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時：令和2年10月1日（木） 11：00～11：45
場 所：法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

学長定例記者会見（9月3日）発表者

1. 新型コロナウイルス感染症への対応状況について

学長

たまて ひでとし
玉手 英利

2. 令和3年度(2021年度) 山形大学大学院研究科の改組について

理事・副学長

でぐち たけし
出口 毅

3. 結髪土偶立ち上がる！

～ お帰り、修復を終えた結髪ちゃん ～

附属博物館長

ばん まさお
伴 雅雄

附属博物館 学芸員

おしの みゆき
押野 美雪

4. 聴覚障がい学生に対する遠隔情報保障支援の取り組み

～ 大学間連携・支援リソース共有の第一歩 ～

学術研究院 准教授（障がい学生支援センター担当）

ありうみ じゅんこ
有海 順子

令和2年（2020年）9月3日

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への対応状況について

山形大学では「新型コロナウイルスに係る総合対策本部」を1月31日に設置し、学生や教職員への対応方針を検討・決定してきました。これまでに合計26回の対策本部会議を開催しており、特に後期の授業開始に向けた対応について、現在の状況をお知らせします。

※今後の感染状況によっては、スケジュールや対応を変更する場合がありますので、ご承知おきください。

1. 後期の授業開始に向けた対応について

- ・今年度後期（10月1日～3月31日）は、十分な感染症対策を徹底した上で、面接授業を開始することを正式決定した（8月21日 総合対策本部決定）。ただし、県内の感染状況が急激に悪化した、あるいは冬期に感染症の拡大が懸念される場合は、全面的にオンライン授業に切り替えることを想定している。
- ・面接授業が開始されても、感染拡大防止の観点から引き続き遠隔授業の形態で行う授業もあり、面接授業と遠隔授業が混在する場合がある。
- ・全学生に対し、面接授業再開に向けた14日間の健康観察期間の確保やコロナ禍における留意事項、ならびに継続した感染予防対策の徹底について引き続き指導し、心身のサポートに努めていく。また、面接授業再開に向けたセルフチェックの実施（実施期間：8月24日～9月8日）について大学ホームページで呼びかけ、不安を抱えている学生等のケアを行っていく。

お問い合わせ

山形大学エンロールメント・マネジメント部 広報室（笠原）

TEL 023-628-4008 メール koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

令和2年(2020年)9月3日

令和3年度(2021年度) 山形大学大学院研究科の改組について

【本件のポイント】

- 令和3年4月に大学院研究科(修士課程・博士前期課程)を改組し、平成29年度の学部改組と連動した大学院の教育体制を新たに構築する。
- 高度な人間力の涵養と知の総合的な推進力の育成を目指し、令和3年4月から新たな大学院共通カリキュラムを導入する。



【概要】

平成31年(2019年)1月22日に中央教育審議会大学分科会は「2040年を見据えた大学院教育のあるべき姿～社会を先導する人材の育成に向けた体質改善の方策～」をまとめ、目指すべき高等教育の在り方が示されました。そこで山形大学は、平成29年度に行った学部改組と連動した大学院の教育体制を新たに構築するとともに、多様化、複雑化する現代社会の抱える課題に対応できる人材育成を実現するため、令和3年4月に大学院修士課程及び博士前期課程の改組を行うことといたします。加えて、高度な人間力の涵養と知の総合的な推進力の育成を目指して、本学の社会的使命である「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」に沿った新たな大学院共通カリキュラムを導入いたします。

※改組等の詳細は、以下及び別紙のとおり

【大学院改組の内容】

改組時期：令和3年4月

改組内容：①社会文化創造研究科の設置(従来の社会文化システム研究科と地域教育文化研究科を再編)

社会文化創造専攻	入学定員 24名	[学位]	修士(文学)、修士(政策科学)、 修士(臨床心理学)、修士(学術)
----------	----------	------	--------------------------------------

②理工学研究科の改組(従来の工学系7専攻を4専攻に再編)

化学・バイオ工学専攻	入学定員 67名	[学位]	修士(工学)
情報・エレクトロニクス専攻	入学定員 62名	[学位]	修士(工学)
機械システム工学専攻	入学定員 50名	[学位]	修士(工学)
建築・デザイン・マネジメント専攻	入学定員 12名	[学位]	修士(工学)

③農学研究科の改組(従来の3専攻を1専攻に再編)

農学専攻	入学定員 32名	[学位]	修士(農学)
------	----------	------	--------

【大学院共通教育カリキュラムの内容】

高度な人間力の涵養と知の総合的な推進力の育成を目指して、以下のとおり体系的なカリキュラムを令和3年4月から大学院修士課程及び博士前期課程に新たに導入する。

- ①基盤教育科目(必修2単位)：本学の社会的使命に相当するテーマを学ぶ「地域創生・次世代形成・多文化共生論」を開講する。この科目では、地域における変化やグローバル化の進行に対応するために、不断に生じる課題を正確に把握し、将来に向けて解決するために必要な人間力を涵養することを狙いとしている。アクティブ・ラーニング型の授業を通じて、地域社会の問題解決力、新たな価値の創造、柔軟な異文化理解力を養成する。
- ②基礎専門科目(選択必修2単位)：知の総合的な推進力を育成するために文理横断型の教育を行う。文系の研究科では主として理系分野の科目を履修させ、理系の研究科では主として文系分野の科目を履修させる。

お問い合わせ

企画・財務部企画・予算課企画担当(川田)

TEL 023-628-4190 メール kikadai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



山形大学大学院研究科の 改組について

山形大学 教育担当理事
出口 毅

令和2年9月3日(木)

組織再編移行表（修士課程及び博士前期課程）

（現 行）

研究科	入学定員
社会文化システム研究科	12
文化システム専攻	6
社会システム専攻	6
地域教育文化研究科	14
臨床心理学専攻	6
文化創造専攻	8
医学系研究科	22
看護学専攻	16
先進的医科学専攻	6
理工学研究科	264
(理学系)	
理学専攻	53
(工学系)	
物質化学工学専攻	38
バイオ化学工学専攻	28
応用生命システム工学専攻	23
情報科学専攻	28
電気電子工学専攻	34
機械システム工学専攻	50
ものづくり技術経営学専攻	10
有機材料システム研究科	85
有機材料システム専攻	85
農学研究科	36
生物生産学専攻	12
生物資源学専攻	14
生物環境学専攻	10



（令和3年4月～）

研究科	入学定員
社会文化創造研究科	24
社会文化創造専攻	24
医学系研究科	22
看護学専攻	16
先進的医科学専攻	6
理工学研究科	244
(理学系)	
理学専攻	53
(工学系)	
化学・バイオ工学専攻	67
情報・エレクトロニクス専攻	62
機械システム工学専攻(M)	50
建築・デザイン・マネジメント専攻	12
有機材料システム研究科	85
有機材料システム専攻	85
農学研究科	32
農学専攻	32

設置の趣旨・必要性

- グローバル化、人口減少による地域の活性化や文化の維持などの課題を解決するため、新たな価値を追及する社会文化創造を目指します
 - ✓ グローバル化が進む現代社会において、日本の地方では人口減少が進行し、地域の活性化や文化の維持などが大きな課題となっている。これらの課題を解決するために、新たな価値(社会的価値, 文化的価値(芸術・スポーツ科学を含む)、心理的価値など)を内包する解決策について創造的・実践的に追及することを「社会文化創造」と捉え、社会文化創造を目指した新研究科(社会文化創造研究科)を設置する。

養成する人材像

- 世界的視野を有する地域創生(グローバル)人材を養成します
 - ✓ 地域創生(グローバル)人材を育成するため、今までの学問領域の垣根を低くして、人文科学、社会科学、臨床心理学及び芸術・スポーツ科学を核にししながら、人間社会を「社会」と「文化」の関係から捉え直し、地域的な展開を新たに創造・実践できる人材を養成する。

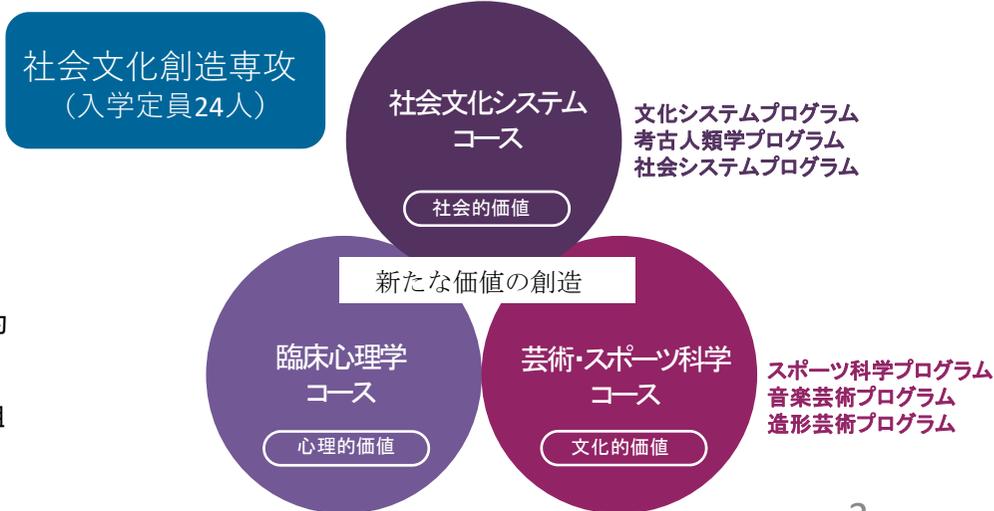
社会文化システムコース(募集人員10人)
 人文・社会科学の専門知を備えて社会・文化の発展に貢献できる高度専門職業人の養成

臨床心理学コース(募集人員7人)
 臨床心理学の知識や諸技法を活かしてこころのケアに貢献できる高度専門家の養成

芸術・スポーツ科学コース(募集人員7人)
 文化の活性化に寄与する専門的職業人の養成

特 色

- すべての学生が分野横断的な教育研究に取り組み、異分野間の教員や学生の学術的交流を深めます
 - ✓ 豊かな人間力の涵養
 - ✓ 学際性の強化
 - ✓ 知の深化と総合化を重視した教育
- 従来の研究科からの主な変更点
 - ✓ 既存2研究科4専攻を1研究科1専攻に再編し、新たに3コースを設置
 - ✓ 広く社会で活躍できる俯瞰的視野・複眼的視野の育成を目指した体系的なカリキュラム提供
 - ✓ 他分野教員を含む複数の指導教員による充実した研究指導
 - ✓ 留学生・社会人・出身大学など多様な背景を持つ学生が交流する取り組みの推進



設置の趣旨・必要性

- ・新産業を創出し、イノベーションを推進する人材を育成する工学教育の構築
- ・持続可能な地域社会の構築に貢献する人材を育成する「建築・デザイン・マネジメント専攻」の設置
- ・7専攻体制から、幅広い学びにより深い専門知識と広い視野を身につけることの出来る4専攻体制へ

【4専攻体制と定員】

■ 化学・バイオ工学専攻	67名
■ 情報・エレクトロニクス専攻	62名
■ 機械システム工学専攻	50名
■ 建築・デザイン・マネジメント専攻	12名

【工学教育プログラム】

イノベーション創出人材育成のための施策

- ① 高度な人間力と知の総合的な推進力の育成
 - ・基盤教育科目/基盤専門科目の設置
 - ・高度専門科目の整備
 - ・メジャー・マイナー制の導入
- ② 学生の多様化に対応するための柔軟な教育システム
 - ・学部学生の大学院科目履修の促進
 - ・講義の英語対応

【建築・デザイン・マネジメント専攻の設置】

地域風土に根ざした新しい価値を生み出す建築・デザインと安全・安心でレジリエントな社会を形成するためのマネジメント手法に関する高度な専門知識と技術を備えた人材を育成



設置の趣旨・必要性

【農学に関わる社会的な背景・ニーズ】

- 農林水産業の人手不足解消と生産性向上
→ICT活用のスマート農業の推進
- 農林水産分野での新産業創出
→革新的な農林水産技術の開発拠点
- 持続可能な社会をめざすSDGsへの貢献
→グローバルな視野で農業問題を捉えるアプローチ

【地域からの要請】

- 山形県農林水産部、山形県食品産業協議会との連携
- 山形県第3次農林水産業元気再生戦略(H29.3)への貢献
- 鶴岡市「ユネスコ食文化創造都市」(H26.12認定)への貢献

【農学研究科のこれまでの実績】

- グローバル人材の育成
 - ・留学生の割合が全学生の10%超
 - ・ダブルディグリープログラム(R1.10)
 - ・国費留学生特別プログラム(R2.10)
- プロジェクト研究の推進
 - ・スマート・テロワール形成講座
 - ・アジアの水・食・健康リスク講座 など

新しい農学研究科の特色(改組のポイント)

現在の農学研究科

専攻	定員
生物生産学専攻	12名
生物資源学専攻	14名
生物環境学専攻	10名



新しい農学研究科

専攻	定員
農学専攻	32名

※取得できる学位は変更なし：修士(農学)

【1専攻に再編して細分化された学問を統合】

- SDGs達成のための持続可能な農業の確立や地球環境問題は複雑化しており、**複数分野の融合**でこれらの問題の解決に取り組む。
- **学際的なプロジェクト研究の成果を教育に反映させる**。その中で、専攻を越えた学生の交流する機会を増やす。
- **国際貢献を指向する学生(留学生を含む)**に対する教育プログラムを整備し、日本人学生と留学生との交流の機会を増やす。

【入学定員を減らして丁寧な教育を】

- 学生数を減らすことで、分野融合、先端研究、グローバル視点を取り入れた**丁寧な教育を一人一人に提供**。

【カリキュラムの充実】

- (1) 特徴的な科目を新設
 - ・環境保全型食農連携実習：庄内地方のフィールドでの**英語による実習**(日本人も受講)
 - ・農学最前線：農学部教員による**先進的な研究プロジェクトについて学ぶ**
 - ・研究インターンシップ：**学外の専門家による研究指導**
- (2) 農学部教員が提供する講義をより多く履修する
- (3) 研究の副指導教員を1名から2名に増やす
→**専門分野の壁を超えた幅広い知識**を習得
- (4) 大学院共通科目の新設=全学的な方針
→高度な人間力、知の総合的な推進力の育成

養成する人材像

豊かな人間力、食料・生命・環境科学に関わる**幅広い知識**と、生物生産学、生物資源学、生物環境学に関する**深い専門性**を身につけ、**国際社会や地域社会の課題解決のために創造力を豊かに発揮できる人材**を育成

R3年度・大学院共通教育の概要

豊かな人間力の涵養と知の総合的な推進力の育成

学修目標

専門力

専門知識と技術の深化
(専門的視野)

知の総合的推進力の育成
(複眼的視野)

豊かな人間力の涵養
(俯瞰的視野)

基盤力

社会文化創造
研究科

理工学
研究科

農学
研究科

有機材料シス
テム研究科

医学系
研究科

各専門科目

各専門科目

各専門科目

各専門科目

各専門科目

高度専門科目

「文理横断教育を実施して知の総合的な推進力を育成」

各研究科
開講科目

各研究科の科目で他研究科の学生にも有意義と思われる科目を提供

基礎専門科目
(選択必修2単位)

全学共通
開講科目

文理（分野）に関わらず知の基盤となる科目を提供

基盤教育科目

豊かな人間力を涵養するため地域創生・次世代形成・多文化共生に関する課題等を提供(アクティブラーニング形式)

基盤教育科目
(必修2単位)

「知のプロフェッショナル」を育成

学部・研究科の組織改編スケジュール

Stage.1 2017(H29)学士課程改組	Stage.2 2021(R3)修士課程改組	Stage.3 2023(R5)博士課程改組
<p>人文社会科学部 (学部名称変更、2学科→1学科)</p> <p>地域教育文化学部 (コース見直し、建築分野→工学部へ)</p>	<p>①社会文化創造研究科 (2研究科→1研究科に再編)</p>	
<p>工学部 (8学科→6学科に改組 (建築学科新設))</p> <p>理学部 (5学科→1学科に統合)</p>	<p>②理工学研究科 (工学系7専攻→4専攻に再編)</p>	<p>大学院後期課程の在り方について検討開始</p>
<p>農学部 (定員見直し)</p>	<p>③農学研究科 (3専攻→1専攻に再編)</p>	

令和2年（2020年）9月3日

結髪土偶立ち上がる！ ～お帰り、修復を終えた結髪ちゃん～

【本件のポイント】

- 約10か月の修復を終えて結髪土偶^(※1)が帰ってきました。左脚を接合したことで、今まで不明であった本資料の全体的な姿が分かるようになりました。
- 頭部などに残る赤色顔料を分析した結果、ベンガラ(酸化第二鉄)^(※2)と分かりました。また、全体に付着していた土を落とすクリーニングや古い修復箇所の解体を行ったことで、文様など土偶の細部が観察しやすくなりました。
- 10月1日から山形大学附属博物館で公開予定(事前予約制)。



【概要】

山形大学附属博物館所蔵の結髪土偶は、2018年7月に左脚と約90年ぶりの再会を果たしました。しかし、左脚と接地する背中側が石膏で復元されており、接合することができませんでした。

そのため、石膏を除去し左脚を接合するための資金調達として、昨年7月にクラウドファンディング(READYFOR)を行いました。結果、目標額を大きく超えるご支援をいただき、10月より元興寺文化財研究所(奈良市)にて修復を行うことができました。修復では全体の汚れを落とすクリーニングや過去の修復・復元箇所の解体、左脚の接合などを行い、専用の展示台を作製し立ち上がった姿を展示できるようになりました。

【経緯】

当該結髪土偶は、寒河江市の石田遺跡^(※3)より出土し、大正末頃寒河江の大地主安達又三郎が所蔵していました。同じく、脚部も安達が所蔵していたことが分かっています。そして、上半身は西村山郡教育会の郷土博物館へ、脚部はそのまま所蔵者の家に伝わりました。その後、上半身は西村山郡教育会から山形県教育会の郷土博物館、そして山形師範学校の郷土室(山形大学附属博物館の前身)に移り、脚部は寒河江市に寄贈されました。

2018年、同市に寄贈された脚部を見た郡山女子大学短期大学部會田容弘教授の指摘により、結髪土偶の一部であることがわかり、約90年ぶりの再会を果たしました。また、同市より左脚の寄贈を受けたことで接合のためのクラウドファンディングを行いました。

【修復について】

クリーニング、解体、強化処置、再接合、一部補填、補彩を行いました。クリーニングでは、土偶の表面や窪みに詰まっていた土が取れ、文様や造形の細部が明らかになりました。また、石膏部分を除去したことで露になった断面や元々割れていて不安定な箇所には樹脂による強化処置や補填を行っています。

蛍光X線分析の結果、鉄が検出されたことで赤色顔料はベンガラであることが判明しました。また、ベンガラの種類を特定するための走査電子顕微鏡観察により、パイプ状ベンガラを含んでいることが分かりました。

【今後の予定】

対面授業が始まり学生達がキャンパスに戻ってくる10月1日より博物館を開館し、結髪土偶を一般公開します。併せて公開講座「結髪土偶立ち上がる！」を11月7、14、28日に開催予定。

今後、結髪土偶の展示以外にも顔料の調査結果やX線CTデータを皆様に役立ててもらおうよう公開していきます。また、両脚復元予想レプリカの作製や、地域の歴史と文化財を大切に育てるための学習教材を作成します。

お問い合わせ

小白川キャンパス事務部総務課 山形大学附属博物館(押野美雪)

TEL 023-628-4930 メール hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

※用語解説

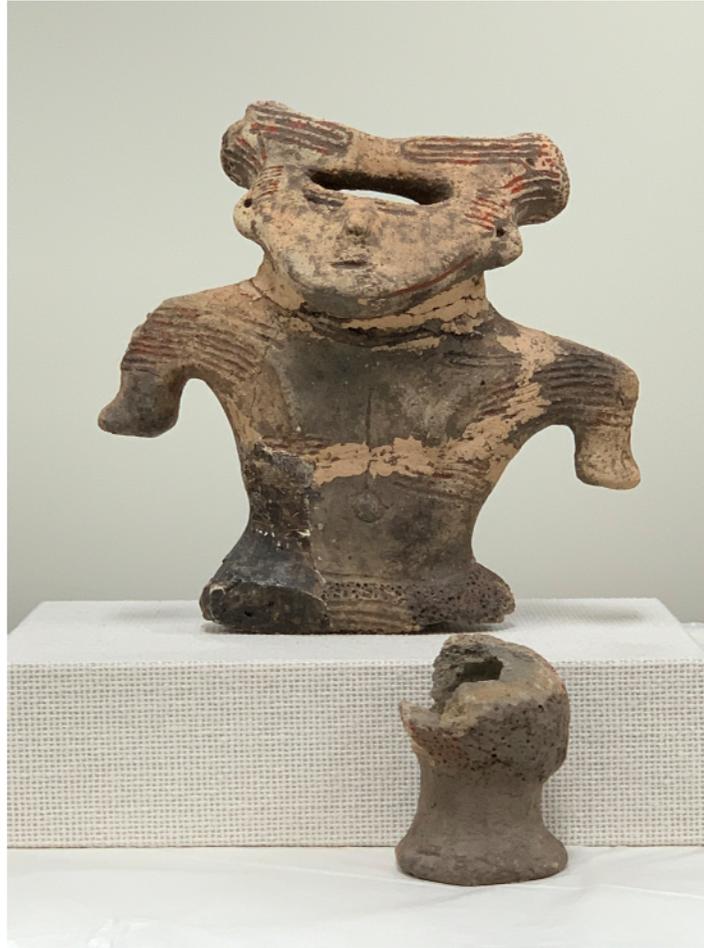
1. 結髪土偶：頭部が髪を結ったような形をしている土製人形。縄文時代晩期、遮光器土偶の後に出現する。
2. ベンガラ：古代より日本で使用された赤色顔料で酸化第二鉄を主成分とする。鉄鉱石をすりつぶしてできる鉱物由来のほかに、土壌に存在する鉄細菌が作り出す黄褐色沈殿物に由来するものがある。鉄細菌が作る酸化鉄は粒子がパイプ状であることからパイプ状ベンガラとよばれる。パイプ状ベンガラが用いられた遺物は縄文早期の遺跡から古墳時代に至るまで各地で見つかっている。
3. 石田遺跡：寒河江市石田の JR 左沢線石田踏切付近。大正 10 年村山軽便鉄道(左沢線)の線路敷工事で縄文時代や弥生時代の遺物が大量に出土、その後昭和 44 年に村山食品株式会社(現サンヨー缶詰株式会社)の工場拡張工事現場から遺物が出土。昭和 55 年には石田遺跡の畑地で宅地造成のための工事で弥生時代の再葬墓が発見された。

結髪士偶立ち上がる！

～お帰り、修復を終えた結髪ちゃん～

2018.7

約90年ぶりの
再会



前面

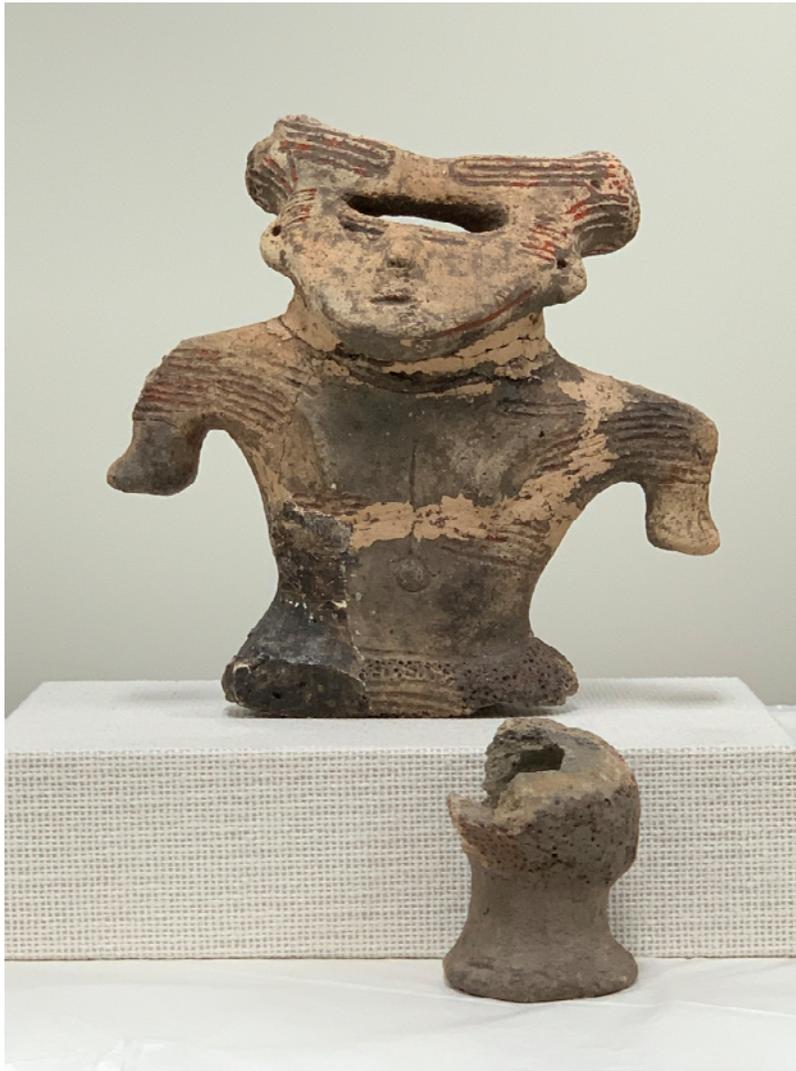


背面



...石膏部分

修復・接合前



修復・接合後



修復・接合前



修復・接合後



令和2年（2020年）9月3日

聴覚障がい学生に対する遠隔情報保障支援の取り組み ～大学間連携・支援リソース共有の第一歩～

【本件のポイント】

- 2020年7月より、山形大学障がい学生支援センター教員と支援学生7名が、米沢女子短期大学在籍の聴覚障がい学生に対し、遠隔情報保障支援*1をスタート。このような取り組みは県内初。
- これにより、情報保障支援技術を有した人材リソースの大学間共有が可能になり、大学等における支援提供の格差解消が期待される。

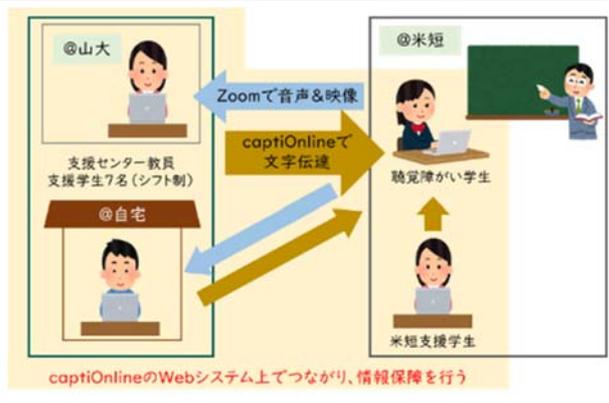


▲遠隔情報保障支援の様子

【概要】

山形大学障がい学生支援センター（以下、支援センター）では、2020年7月から8月末まで、米沢女子短期大学（以下、米短）在籍の聴覚障がい学生に対し、遠隔での情報保障支援を行いました。captiOnline（キャプションライン）※2という情報保障及び音声認識機能を持つWebシステムを用いて授業者の発話を文字化し、聴覚障がい学生は、その文字情報を閲覧しながら授業に参加しました。

大学間で連携し、さらにオンラインで聴覚障がい学生支援にあたる取り組みは県内初で、支援リソースを共有することで、大学の枠を超えた情報保障支援体制の拡充が期待されます。



【経緯】

昨年度、米短から聴覚障がいのある新入生への支援体制構築に関する相談を受けていた。コロナウイルス感染防止のため、本学学生が現場に行かずして支援を行える「遠隔情報保障支援体制」を導入することとした。米短において対面授業を開始する7月1日に合わせ支援体制を準備し、7月2日（木）から2ヶ月間支援を実施した。

【取組内容】

- 本学支援者は、支援センターや自宅で、授業者の音声と映像をWeb会議アプリ「Zoom」で聴取し、captiOnline上で音声認識された文字の修正を行った。音声認識後の文字情報や修正した情報は、リアルタイムにcaptiOnlineの閲覧ページに反映され、それを見て聴覚障がい学生は授業内容を理解した。
- 支援は木曜2限および3限に担当。米短学生ペアと本学支援者ペアで、15分交替で支援にあたった。
- 「情報保障のおかげで楽しく授業を受けられた」と利用学生から高評価であり、学生の学びの一助となったといえる。また本学学生らもやりがいを感じて支援にあたり、双方にとって学びと成長の機会となった。

【今後の展望】

後期以降も、この取り組みを継続する予定。さらに、支援センターが開催する養成講座や勉強会に米短の学生らも参加する等、さらに大学間の連携を深め、支援体制の充実を図っていく。

※用語解説

1. 遠隔情報保障支援：インターネット等を介して、授業者の発話等を文字化し聴覚障がい学生へ伝達する支援。
2. captiOnline：筑波技術大学・若月大輔准教授が開発。オンラインで情報保障支援を行えるWebシステム。

<https://capti.info.a.tsukuba-tech.ac.jp/>

お問い合わせ ※米短への取材希望の場合はこちらへお問い合わせください。
学術研究院 准教授（障がい学生支援センター担当） 有海 順子
TEL 023-628-4922 メール shougai-shien@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

令和2年(2020年)9月3日
山形大学

*詳細は別添の資料をご覧ください。

1. Virtual Open Campus 2020 学生企画イベント“YU for You”

新型コロナウイルス感染症拡大の予防策としてオンラインで開催した「Virtual Open Campus 2020」に加え、本学の学生らが有志で企画したイベントを、大学とのコラボレーションで開催します。

「高校生」「保護者」「高校教員」の対象者別に個別質問セッションを設け、現役の大学生が、大学入学前の過ごし方や大学での学び、入学後の生活などの体験談を語ります。

日 時：9月26日（土） 13：30～17：00

実施方法：Zoom ミーティング

協力学生：本学学生11人（男子：7人、女子：4人）

対 象 者：高校生、高校生の保護者、高校教員

募集定員：対象者ごとに80人程度

2. ヤマガタステム（STEM）アカデミー

～ 「ジュニアドクター育成塾」マスターコース受講生募集 ～

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の次世代人材育成事業「ジュニアドクター育成塾」に採択された「ヤマガタステム（STEM）アカデミー」マスターコースの第1期生を募集します。今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、実習のほかオンラインで研究活動を行います。

対 象：小学5年生から中学3年生 40名程度

募集エリア：山形県内すべての小学校・中学校および隣県の小学校・中学校

費 用：受講料無料

応募締切：9月9日（水）17時

3. 女子中高生のためのサイエンス・カフェ開催

～ 親子で女性の研究者と話してみよう ～

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の次世代人材育成事業「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に採択された「ヤマガタ 夢 ☆ 未来 Girls プロジェクト」の事業の一環として、サイエンス・カフェを実施します。女子中高生の親子を対象に、山形大学の女性研究者と女子大学院生が講師となって、科学の面白さをわかりやすく伝えます。

日 時：10月4日（日） 13：30～15：00

現地会場：遊学館3階 第1研修室（山形市緑町）

対 象：女子中高生の親子20組（YouTube参加も可・一般の方も視聴可）

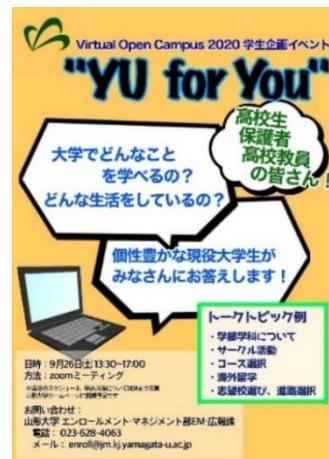
申込み：9月18日（金）まで

令和2年(2020年)9月3日

Virtual Open Campus 2020 学生企画イベント“YU for You”

【本件のポイント】

- オンラインで開催した「Virtual Open Campus 2020」による情報発信に加え、本学の学生有志の企画イベントを大学とのコラボレーションで開催します！
- 「高校生」「保護者」「高校教員」の対象者別に個別質問セッションを設定。現役の大学生が、大学入学前の過ごし方や大学での学び、入学後の生活などの体験談を語ります！



【概要】

山形大学では、オンラインで開催した「Virtual Open Campus 2020」による情報発信に加え、本学の学生有志が企画提案した自身の体験談を語るイベントを大学とのコラボレーションにより開催します。

「Virtual Open Campus 2020」で配信してきた様々なコンテンツのほか、「バーチャル」な環境下でも、高校生や保護者、高校教員への“学生目線”を重視したリアルな情報発信を狙います。

本イベントでは、個性豊かな現役山大学生が参加者の個別質問に応じながら、本学入学までの時間をどのように過ごし、入学後どのような大学生活を送っているのか等について、自らの体験談を語ります。現役学生との交流を通して山形大学を身近に感じてもらい、入学後の生活や大学での学びのイメージにつなげてもらえるよう、より参加者の興味関心に寄り添った情報提供を重視しています。

【開催について】

新型コロナウイルス感染症の影響から、例年対面で実施しているオープンキャンパスを今年度は全てオンラインに切り替え、学部紹介動画や学生インタビュー、テレビ会議システムによる体験授業等、多様な情報提供を行いました。一方で、従来の対面のオープンキャンパスでは、各キャンパスに設けた学生ブースでの山形大学生との対談が、受験生や保護者にとって、進路選択の重要な役割を果たしています。

そこで、学生達は自らの体験に照らし、「Virtual Open Campus 2020」でも実現したいとの思いからイベントを企画しました。「学生目線を大切にして学生とともに成長を目指す」という本学の基本理念に沿って、大学とのコラボレーションにより開催します。

【イベントの日程・方法等】

実施日時：2020年9月26日(土) 13:30~17:00

実施方法：Zoomミーティング

協力学生：本学学生11人(男子：7人、女子：4人)

対象者：高校生、高校生の保護者、高校教員

募集定員：対象者ごとに80人程度

※当日のスケジュール、申込方法については、決定次第、山形大学ホームページに掲載します。

お問い合わせ

山形大学 エンrollment・マネジメント部 EM・広報課

電話：023-628-4063 Fax：023-628-4144

メール：enroll@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



Virtual Open Campus 2020 学生企画イベント

"YU for You"

大学でどんなこと
を学べるの？
どんな生活をしているの？

高校生
保護者
高校教員
の皆さん！

個性豊かな現役大学生が
みなさんにお答えします！



トークトピック例

- ・ 学部学科について
- ・ サークル活動
- ・ コース選択
- ・ 海外留学
- ・ 志望校選び、進路選択

日時：9月26日(土) 13:30~17:00

方法：zoomミーティング

※当日のスケジュール、申込方法については決まり次第
山形大学ホームページに掲載予定です

お問い合わせ：

山形大学 エンrollment・マネジメント部EM・広報課

電話：023-628-4063

メール：enroll@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

令和2年（2020年）9月 3日

ヤマガタステム（STEM）アカデミー ～「ジュニアドクター育成塾」マスターコース受講生募集～

【本件のポイント】

- 山形県内及び仙台市周辺の小学5年生から中学3年生から公募して、受講者40名を選抜します。
- 今年度は新型コロナ感染対策として実習のほかオンラインで研究活動を行います。科学的思考力や論理的思考力、情報活用能力など児童生徒の能力を伸長する体系的育成プランを開発・実施します。
- 40名の中から来年度10名を選抜し、さらに高度な研究を行うドクターコースに進んでもらいます。



【概要】

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の次世代人材育成事業、「ジュニアドクター育成塾」に採択された「ヤマガタステム（STEM）アカデミー」マスターコースの第1期生40名を募集いたします。

この取り組みは修了した小中学生がSTEMを学び、SDGsを理解することにより理系分野への興味・関心を高め、理工系分野への進学・就職に関する理解を深めるための知識を修得することを目的とします。

今年度は第1段階として40名を選抜します。大学院理工学研究科、大学院教育実践研究科が中心となり実施するもので、小中学生から第1段階40名、第2段階10名を選抜し、SDGsの概念を学び、山形の地域や文化を活かし、科学技術により解決できる問題を意識させます。将来自分たちが直面するローカルからグローバルな問題を知ること、解決するための科学技術（STEM）が重要な役割を果たすことを認識し、より深い科学の探求を促し、科学技術と社会の関連性を学ぶ場を提供します。今年度は新型コロナウイルス感染症対策として実習を除き極力対面授業ではなく、ICTを利用した研究指導を実施します。

【ヤマガタステム（STEM）アカデミー】

連携機関として山形県教育委員会（義務教育課、山形県教育センター）、山形市教育委員会、山形市総合学習センター、山形県立博物館、山形県産業科学館、山形県産業労働部工業戦略技術振興課、鶴岡市立加茂水族館

今回の取り組みは児童生徒の中には、日ごろから理科等が大好きで、いろいろな実験イベントに参加したり、夏休みの自由研究でも学校代表に選ばれる機会が多い児童生徒もいますが、実験結果についてまとめることが苦手な子もおり、実験ノートの記録の仕方に始まり、レポートの書き方の指導が必要です。これらの児童生徒を受講生として、実験ノートの記録に始まり、簡単なレポートの作成ができるようになるには、大学院生等若手研究者による最初の段階での指導は非常に効果的であることが分かっているので、その指導により科学的手法を身に付け考察し議論できる能力を身に付けることができることを目的とします。

その中で、学習指導要領にも記載されるSDGsの概念を学び、自分たちの問題を科学で解決できることを理解し行動できる人材が求められています。そこで、科学技術で解決できる問題を意識させて、将来自分たちが直面するローカルからグローバルな問題を知り、解決するために科学技術(STEM)が重要な役割を果たすことを認識し、より深く意識してもらい、修了者は各種の理科コンテストに応募・入賞できる能力を養うと共に将来科学者や研究者としてSTEM教育を活用した持続可能な社会を考えられる要素を身につけてもらうことを目標とします。

お問い合わせ

学術研究院 教授 栗山 恭直（理学部 有機化学・光化学）

TEL 023-628-4586（教員居室）

023-628-4506（山形大学 SCITA センター）

メール su187@kdw.kj.yamagata-u.ac.jp

ヤマガタステム(STEM)アカデミー

Yamagata STEM Academy

令和2年度 マスターコース第1期生募集中!

-  **S** ... Science (科学)
-  **T** ... Technology (技術)
-  **E** ... Engineering (工学)
-  **M** ... Mathematics (数学)

現代社会で私たちが直面するさまざまな問題を解決するためには、**STEM(ステム)分野**を統合的に学ぶことが重要であると考えられています。
ヤマガタステムアカデミーでは、科学だけでなく、STEM分野について広く学んでいきます。

■ヤマガタステム (STEM) アカデミーって?

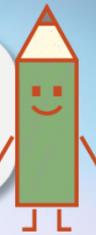
SDGs*で継続する社会を学びながら科学技術を理解し、人類の未来に役立つ産業を生み出す、想像力豊かな理系人材を育成する教育プログラムです。理科好きの小・中学生の科学的思考力や論理的思考力、情報活用能力を伸ばすプログラムを、山形大学と連携機関が提供します。次年度には受講生から選抜された10名が第2段階(ドクターコース)へと進み、自分の興味のある研究テーマについて研究を行います。

■ICTを活用した授業を行います

授業でのデータ収集や実験ノートの記録だけでなく、事前学習や課題の提出、先生とのコミュニケーション、受講生同士の情報交換、自身の学習記録作成などに、iPadとGoogle for Educationを活用します。**受講生には、iPadを一人一台貸し出します。**

■どんなことを学べるの?

電池づくりの実験やプログラミング、ビッグデータ分析の体験など大学で行う講座に加え、県民の森でのフィールドワークや加茂水族館でのクラゲ学習会など、県内のさまざまな場所での活動を計画しています。※活動内容は変更となる場合があります。



大学の教授や大学院生が
みなさんの学びを
サポートします!



*SDGs (エス・ディー・ジーズ) とは...

“Sustainable Development Goals”=「持続可能な開発目標」のこと。2015年9月の国連総会で、全会一致で採択されました。発展途上国のみならず、先進国自身も取り組む2016年から2030年までの国際的な目標で、持続可能な世界を実現するための17の目標・169のターゲットから構成されています。



この事業は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)による令和2年度「ジュニアドクター育成塾」事業に採択されています。

※お申込み方法等については裏面をご覧ください

令和2年度 ヤマガタSTEM(STEM)アカデミー マスターコース 募集要項

- ◆対象：小学5年生から中学3年生 40名程度
※毎月2回程度、土曜日または日曜日に山形大学などで開催される講座に参加できる方。
※自宅のインターネット環境が整っており、オンライン講座等に参加できる方。
 - ◆募集エリア：山形県内すべての小学校・中学校（山形大学附属小学校・中学校も含む）
および隣県の小学校・中学校
 - ◆費用：受講料は無料です。ただし、山形大学までの交通費と通信料は受講者にてご負担ください。
 - ◆応募方法：右のQRコードよりお申込みフォームへアクセスいただき、
必要事項を入力の上、お申込みください。
お申込みフォーム URL：<https://www.sci.yamagata-u.ac.jp/news/form/511/>
 - ◆選考方法：①事前課題（400字程度の作文2種類）
※記入用紙は応募いただいた方にメールにてお送りいたします。
9月11日(金)12時までメールにて提出、または選考日当日に持参してください。
②個人面接 ※面接方法（直接またはオンライン面接）をお選びください。
（選考委員：山形大学及び山形県教育委員会、山形市総合学習センター、山形県工業戦略技術振興課）
 - ◆選考日：令和2年9月12日(土) ※面接時間については個別にメールにてご連絡いたします。
 - ◆選考場所：山形大学小白川キャンパス 理学部（オンライン面接の場合は自宅）
 - ◆応募締切：令和2年9月9日(水) 17時
- 【お問い合わせ】
- ◆メール：ysacademy@sci.kj.yamagata-u.ac.jp ◆電話：023-628-4517（平日10時30分～17時）



📅 今後のスケジュール（予定） ※変更となる場合があります。

実施日	実施内容	実施場所
9月20日(日)	オリエンテーション	山形大学
9月26日(土)	アサリは大きくなるとハマグリになる??	山形大学
10月10日(土)	粘菌を探そう	県民の森（希望者のみ）
10月24日(土)	SDGsってなんだろう？	山形大学
11月	化石採取に行こう	寒河江川（希望者のみ）
11月	電池を作ろう	オンライン講座
12月	プログラミング体験	オンライン講座
12月	水族館で学ぼう	加茂水族館（希望者のみ）
12月	高校生はどんな研究をしているのかな？ (山形県探究型学習課題研究発表会参観)	オンライン講座
1月	科学の甲子園ジュニアに挑戦	山形大学
1月	データサイエンス講座	オンライン講座
2月	SDGs 未来の都市づくり	オンライン講座
3月	プレゼンテーション	山形大学

※オンライン以外の講座については、できる限りの感染防止策を講じた上で実施いたします。

令和2年（2020年）9月3日

女子中高生のためのサイエンス・カフェ 開催

～ 親子で女性の研究者と話してみよう ～

【本件のポイント】

- 「ヤマガタ 夢 ☆ 未来 Girls プロジェクト」(JST 令和2年度女子中高生の理系進路選択支援事に採択)の事業として、サイエンス・カフェを開催します。
- 女子中高生の親子を対象に、山形大学の女性研究者と女子大学院生が講師となって、科学の面白さをわかりやすく伝えます。
- 中高生をはじめ一般市民へもYouTubeで配信することにより、理工系分野への関心、理工系の進路への理解を深めることができ、女子中高生の理系進路選択に効果が期待されます。

【概要】



今年度、科学技術振興機構（JST）の女子中高生の理系進路選択支援事業に採択された「ヤマガタ 夢 ☆ 未来 Girls プロジェクト」の事業の一環として、サイエンス・カフェを実施します。

この事業では、女子中高生やその保護者へ理工系の進路に対する興味・関心や理解を深めるため、中高生への出前講座を中心とした取組を行っています。このたびは、女子中高生の親子20組を対象に、10月4日（日）、遊学館（山形市緑町）においてサイエンス・カフェを開催します。男女共同参画センターの協力のもと、山形大学の女性研究者と女子大学院生が、身近なフルーツキウイを利用した面白い実験を行い、小グループで話し合いを行います。一般の皆様も申し込みいただければ、YouTubeで視聴できます。詳しくはチラシをご覧ください。

女子中高生のためのサイエンス・カフェ ～親子で女性の研究者と話してみよう！～

日 時： 2020年10月4日（日）13:30～15:00
 現地会場： 遊学館3階 第1研修室（山形市緑町 駐車場は県営駐車場）
 YouTube 参加も有（一般の方も視聴可能）
 講 師： 河合 寿子氏 山形大学学術研究院 助教（理学部）
 女子大学院生の皆さん 山形大学理工学研究科
 内 容： ★実験してみよう！
 「キウイゼリーは作れるの?!～キウイの酵素とタンパク質分解～」
 ♥ 女性研究者を囲んで話をしてみよう！
 申 込： 必要事項を明記のうえ、山形大学男女共同参画推進室までメールで申込み
 必要事項： 生徒・保護者氏名、学校名、学年、電話番号、メールアドレス、住所
 会場参加か YouTube 視聴かのどちらかを必ず明記

Email : y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

【ヤマガタ 夢 ☆ 未来 Girls プロジェクト】

プログラムは、女子中高生の理系分野への興味や関心を高め、理系分野へ進むことを志すための様々な取り組みを産業界学民間団体など産官学で連携し、理工系分野で女性活躍に関する社会一般から理解の獲得を促進する事業です。

お問い合わせ
 学術研究院 准教授 井上 榮子（山形大学男女共同参画推進室）
 TEL 023-628-4586
 メール y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
 学術研究院 教授 栗山 恭直（理学部 有機化学・光化学）
 TEL 023-628-4586（教員居室）
 023-628-4506（山形大学 SCITA センター）
 メール su187@kdw.kj.yamagata-u.ac.jp

対象

女子中高生の
親子20組

山形大学「女子中高生理系進路選択支援事業」

協力：山形県男女共同参画センター「チェリア」



女子中高生のためのサイエンス・カフェ ～親子で女性の研究者と話してみよう!～

2020年10月4日(日) 13:30～15:00

現地会場：遊学館3階 第1研修室(山形市緑町 駐車場は裏面)

▶ YouTube参加も有(一般の方も視聴可能)

講師

河合寿子氏

山形大学理学部 助教

女子大学院生の皆さん

山形大学理工学研究科

内容

★実験してみよう!

「キウイゼリーは作れるの?!

～キウイの酵素とタンパク質分解～」

♥ 女性研究者を囲んで話をしてみよう!

◆申込み方法◆

必要事項を明記のうえ、山形大学男女共同参画推進室までメールで申込み

必要事項：生徒・保護者氏名、学校名、学年、電話番号、メールアドレス、住所、会場参加かYouTube視聴かのどちらかを必ず明記

Email  y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

申込締切 9月18日(金)

会場にお越しの際には、検温とマスク着用にご協力くださいますようお願いいたします。



問合せ先 山形大学男女共同参画推進室

TEL ☎ 023-628-4937 Email ✉ y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

